

2022 年度の保険事故・保険金支払の状況

2023 年 7 月 31 日

株式会社日本貿易保険

1. 2022 年度の概要

お客様から提出された「損失等発生通知」に基づく保険事故の発生額は約 1,625 億円となりました。新型コロナ禍の影響を受けた保険事故に加え、2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻の影響を受けた保険事故も発生した結果、損失等発生通知の件数は前年度と比較して大幅に増加しました。

保険金の支払額は合計で約 323 億円となりました。2001 年の NEXI 創設以来二番目に大きな支払額となった昨年度に比べると減少しましたが、それでも過去の平均支払保険金額を大きく超える保険金をお支払いしました。

2. 事故発生・保険金支払の実績

(1) リスク別（非常危険／信用危険別）

（単位：百万円）

区分	危険区分	2020 年度	2021 年度	2022 年度	前年度比 増減率
事故 発生 (注 1)	非常危険	50,553	27,926	43,540	55.9%
	信用危険	28,070	24,980	25,531	2.2%
	再保険	26,099	62,387	93,415	49.7%
	金額合計	104,722	115,293	162,487	40.9%
	件数	262	183	229	25.1%
保険金 支払	非常危険	4,071	36,541	7,441	▲79.6%
	信用危険	15,320	14,425	11,888	▲17.6%
	再保険	3,685	10,274	12,932	25.9%
	金額合計	23,076	61,241	32,260	▲47.3%
	件数	81	47	55	17.0%

注 1：事故発生は、2022 年度に受理した損失等発生通知を集計したものです。

注 2：再保険は、他の NEXI の統計上では信用危険として計上されております。

注 3：各項目の数字は四捨五入で表記しているため、合計と一致しないことがあります。

事故発生では、新型コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻の影響を受け、非常危険及び、再保険の事故発生金額が前年度と比較して大幅に増加したことから、全体では約 4 割の増加となりました。

保険金支払では、再保険金の支払額は増加したものの、非常危険と信用危険の支払金額が減少した結果、前年度比では半分の金額となりました。ただし、半減の理由は、昨年度が新型コロナ禍による大型の保険金支払いがあったためであり、2022 年度も 300 億円を超える多額の保険金をお支払いしました。

(2) 地域別

非常危険では、事故発生は、ウクライナ侵攻の影響を直接受けたヨーロッパ、間接的影響や新型コロナの影響による外貨不足に陥ったアジア・中近東の割合が高く、保険金支払では大型案件の保険金支払により北・中米の割合が約6割となりました。

信用危険では、事故発生は、大型案件で事故が発生したアジア・中近東や南米の割合が高くなりました。

<2022 年度の地域別実績>

(単位：百万円)

地域	事故発生金額		保険金支払金額	
	非常危険	信用危険	非常危険	信用危険
アジア・中近東	25,686	15,499	1,614	2,542
ヨーロッパ	6,719	894	726	101
北・中米	3,949	1,881	5,062	46
南米	182	6,975	38	7,184
アフリカ	7,004	266	0	2,014
オセアニア	0	16	0	0
合計	43,540	25,531	7,441	11,887
	69,072		19,329	

注4：地域別実績に再保険の実績は含まれておりません。

注5：各項目の数字は四捨五入で表記しているため、合計と一致しないことがあります。

事故発生



保険金支払



3. 保険金支払事例

2022 年度は非常危険の保険事故が多く発生しました。そのうち保険金をお支払した事例をご紹介します。

保険金支払い事例 <ロシアによるウクライナ侵攻 1>

～【中小企業・農林水産業輸出代金保険】
船積後に代金回収不能となり、損失が発生したケース～

<事故概要>
日本企業（被保険者）が在ウクライナ企業（バイヤー）向けに貨物を船積。その後、ロシアがウクライナへ軍事侵攻したため、バイヤーは貨物の受取および代金決済ができなくなり、損失が発生。損失の原因となった事由が、「戦争・内乱・革命等」に該当したことから、約1,300万円の保険金をお支払いした。

保険金支払い事例 <ロシアによるウクライナ侵攻 2>

～【貿易一般保険】増加費用特約
非常事由により航路の変更を余儀なくされ損失（運送費用の増加分）が発生したケース～

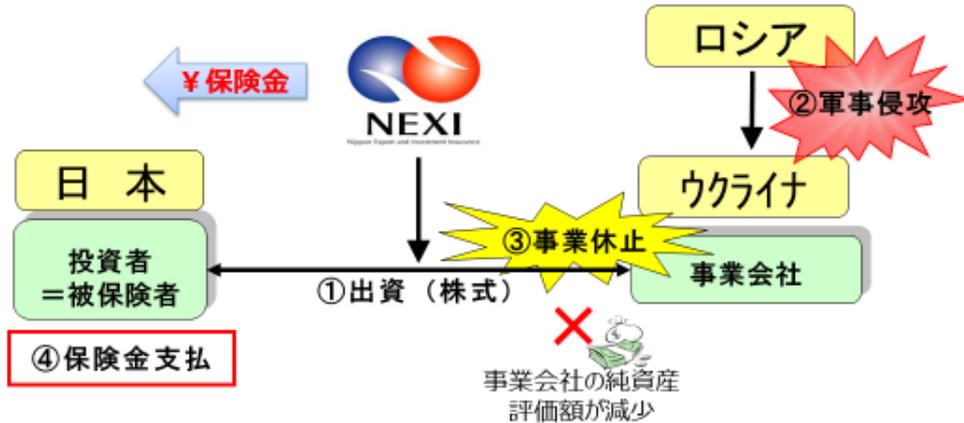
<事故概要>
日本企業（被保険者）が在トルコ企業（バイヤー）に貨物を船積。その後、ロシアがウクライナへ軍事侵攻したため、黒海が封鎖された。船は黒海を迂回することとなり、追加の運送費用が発生。増加した費用について被保険者はバイヤーと交渉し、約3割を負担することになった。その費用を損失として約2,000万円の保険金をお支払いした。

保険金支払い事例 <ロシアによるウクライナ侵攻3>

～【海外投資保険】1ヵ月以上の事業休止となり、損失が発生したケース～

<事故概要>

日本企業（被保険者）が在ウクライナのグループ会社（事業会社）を設立。保険責任期間中にロシアがウクライナへ軍事侵攻したことにより、事業者が保有していた倉庫が爆撃され在庫が全焼し、1ヵ月以上の事業休止となった。その結果、事業会社向け投資価値が棄損し、損失が発生。損失の原因となった事由が「戦争・内乱・革命等」に該当したことから、約5,000万円の保険金をお支払いした。

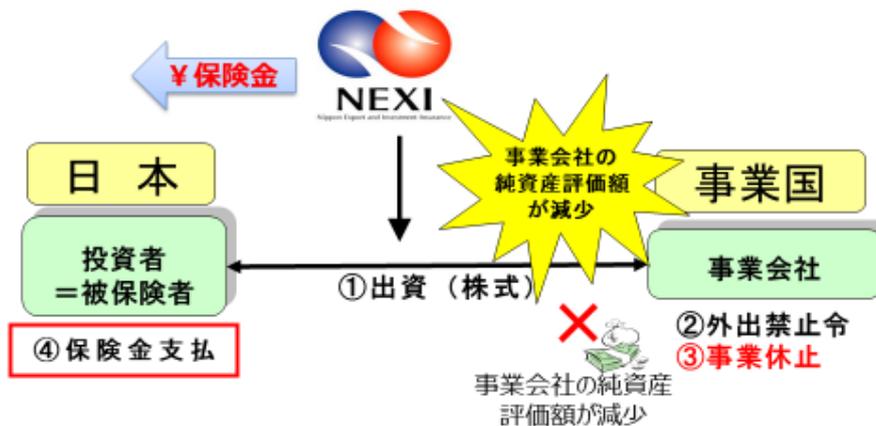


保険金支払い事例 <コロナによるロックダウン>

～【海外投資保険】1ヵ月以上の事業休止となり、損失が発生したケース～

<事故概要>

日本企業（被保険者）がA国のグループ会社（事業会社）を設立。保険責任期間中に新型コロナウイルス感染拡大に起因した外出禁止令が発令され、1ヵ月以上の事業休止となった。その結果、事業会社向けの投資価値が棄損し、損失が発生。損失の原因となった事由が「異常な自然現象により生じる災害」に該当したことから、約2,500万円の保険金をお支払いした。

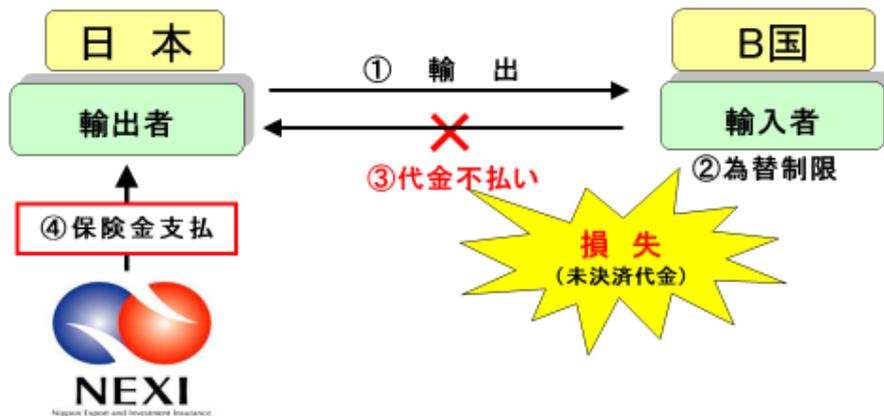


保険金支払い事例 <外貨不足による為替制限>

～【貿易一般保険】船積後に為替制限が発動され、損失が発生したケース～

<事故概要>

日本企業（被保険者）がB国企業（バイヤー）向けに貨物を船積。その後、支払国が外貨不足を理由に為替制限を発動したため、代金回収が不能となり、損失が発生。損失の原因となった事由が「外国において実施される為替取引の制限又は禁止」に該当したことから、約3,800万円の保険金をお支払いした。

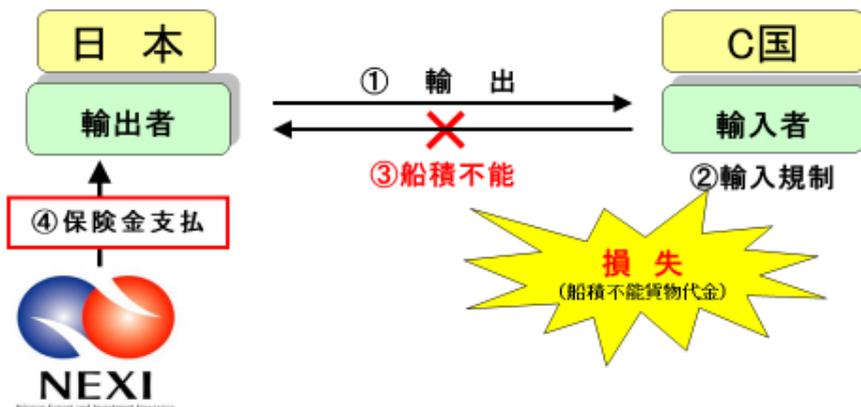


保険金支払い事例 <鳥インフルエンザによる輸入規制>

～【貿易一般保険】船積前に輸入規制が発動され、損失が発生したケース～

<事故概要>

日本企業（被保険者）がC国企業（バイヤー）向けに鶏卵を輸出しようとしたところ、被保険者が養鶏・採卵していた県で鳥インフルエンザが発生し、支払国が発生地域からの鶏卵について輸入規制を発動したため、船積不能となり、損失が発生。損失の原因となった事由が「仕向国において実施される輸入の制限又は禁止」に該当したことから、約800万円の保険金をお支払いした。



4. おわりに

2022年度は、ロシア、ウクライナ両国向けの保険事故のみならず、多くの国が新型コロナ禍や、ロシアによるウクライナ侵攻の影響を受けた結果、非常危険、信用危険共に保険事故が多く発生しました。また、過去、発生件数が少ない輸出不能の事故も複数発生しました。

それらの保険事故案件は、2022年度中に保険金の請求を頂いたものもありますが、損失の算定に時間が掛かるお取引もあるため、2023年度以降も保険金をご請求いただくことが見込まれています。

2020年以降の新型コロナウイルスの世界的流行、2021年のミャンマーのクーデター発生、2022年のロシアのウクライナ侵攻等、ここ数年は毎年のように非常事故が発生しています。このような状況にあって、貿易保険に期待される役割も高まっており、引き続き迅速な保険金のお支払いを実施して参ります。

お客様におかれましては、日頃から、バイヤーやお取引の状況変化にご留意いただくとともに、事故発生時には損失の防止や軽減にご協力いただいております。感謝申し上げます。

万が一、お客様のお取引で、保険事故が発生しましたら、下記までご相談ください。

問合せ先：株式会社日本貿易保険(NEXI) 債権業務部 査定グループ
e-Mail: satei[at]nexi.go.jp
TEL:0120-673-094(フリーダイヤル)

以上